

## はじめに

### 1 みえ県民意識調査の概要

県では、「みえ県民力ビジョン」において「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げ、県民の「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に、「幸福感」についての意識や、地域や社会の状況についての実感などを項目とする「みえ県民意識調査」を毎年実施しています。

本年1月から2月にかけて実施した「第3回みえ県民意識調査」の概要は次のとおりで、集計結果は4月に公表したところです。

調査期間：平成26年1月～2月

調査対象：県内に居住する20歳以上の男女10,000人に対する郵送アンケート

有効回答数：5,456人（有効回答率 54.6%）

調査項目：

- ・ 幸福感（第1回調査からの継続項目）
- ・ 地域や社会の状況についての実感（第1回調査からの継続項目）
- ・ 生活や仕事のこと
- ・ 地域や社会とのつながり
- ・ 家族や精神的なゆとり

### 2 分析レポートの目的

「みえ県民意識調査」を詳細に分析した結果は、県民の皆さんの幸福実感を高めるための参考となり、政策議論の材料としても活用できることが第1回調査および前回調査で明らかになりました。

今回の調査については、既に集計結果（報告書）を公表し、県の年次報告書である「成果レポート」にも主な結果を記載したところですが、この意識調査の結果が「三重県経営方針」の策定や当初予算議論の際の資料等として活用されるよう、戦略企画部職員による「みえ県民意識調査分析ワーキング」を設け、専門家の助言も得ながら、詳細な分析を進めてきました。

このレポートでは、幸福実感について詳細に分析した結果を整理した上で、県民の幸福実感と密接に関連しているものは何か、あるいは幸福実感向上のためにはどのような課題があるのかなどについて考察した内容を記述しています。この意識調査の結果だけで政策を判断することはできませんが、このレポートをきっかけとして、県民の幸福実感向上と政策のあり方等について議論が展開されることをめざしています。

### 3 本レポートの構成

第1章「県民の幸福実生の現状」では、10点満点で質問した幸福実生がどのような特徴や傾向があるのかを明らかにするため、属性別に集計しました。

第2章「幸福実生指標の現状」では、「みえ県民力ビジョン」に掲げる16の幸福実生指標に対応する「地域や社会の状況についての実感」の属性別集計、第1回からの推移をまとめ、その特徴や傾向の把握に努めるとともに、どのような課題があるのか等についての分析と考察をしました。

第3章「家族と幸福実感」では、これまでの調査結果により「家族」が県民の幸福実感と密接な関連があることが明らかになったことから、今回調査における新たな質問項目の「父親の育児参画」と「結婚」、「子ども」について詳細に分析しました。

第4章「地域や社会とのつながりと幸福実感」では、前回調査で「地域や社会へのつながり」と県民の幸福実感には関連があることが明らかになったことから、今回調査における新たな質問項目の「会話の頻度」や「地域活動への参画」などについて詳細に分析しました。

第5章「働き方と幸福実感」では、「女性の就労」や「希望の就業時間と実際の就業時間」など県民の幸福実感と関連があると考えられる働き方に関する項目について詳細に分析しました。

第6章「まとめ（県民の幸福実感向上のために）」では、第1章から第5章の統計的な分析から見てきた県民の幸福実感の特徴や傾向を整理しながら、県民の幸福実感と密接な関連があるもの、あるいは県民の幸福実感向上のためには何が課題なのか等について考察し、仮説も含め記述しています。

#### 4 分析を進めるにあたって

第1回調査から、みえ県民意識調査分析ワーキングに参画いただいている鳥取大学地域学部の小野達也教授には、2度にわたり来県していただき、意識調査の結果を徹底的に分析し政策に活用することの大切さと、集計データの統計的な有意性の確認方法などについて具体的に説明をいただき、分析作業を後押ししてくださいました。

また、次の専門家（順不同）の方々には、調査票の設計や分析の方法等について貴重なご助言をいただきました。

- ・津谷典子慶應義塾大学経済学部教授（三重県経営戦略会議委員）
- ・白波瀬佐和子東京大学大学院人文社会系研究科教授（三重県経営戦略会議委員）
- ・玄田有史東京大学社会科学研究所教授

調査の実施や分析を進めるにあたり助言をいただきました皆さまには改めてお礼を申し上げますとともに、今後ともご助言をお願いしたいと思います。

#### 5 その他（記載方法など）

- ・本レポートでは、10点満点で調査した幸福感についてのみ「幸福感」として記述し、地域や社会の状況についての実感を含む主観的な実感全体については、「幸福実感」として記述しています。
- ・データを属性別に細分化すると、どうしてもサンプル数が少なくなり、統計的な精度が低くなることから、出来る限りデータに統計的な有意性があるのかについて確認しました。また、属性項目のうち、職業の「その他の職業」、世帯類型の「その他世帯」、世帯収入の「わからない」は、原則として、記述を省略しています。
- ・スペース等の都合上、選択肢の表現等を趣旨が変わらない程度に簡略化して記述しています。また集計にあたっては、未回答の扱いや四捨五入の関係により、回答比率の合計が100%にならない等の場合があります。
- ・詳細なデータについては、データ集として別冊にまとめています。データが必要な方は、県ホームページ（[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/SENSOMU/HP/mieishiki) <http://www.pref.mie.lg.jp/SENSOMU/HP/mieishiki>）をご覧ください。また、三重県戦略企画総務課（059-224-2062 電子メール [sensomu@pref.mie.jp](mailto:sensomu@pref.mie.jp)）まで連絡をお願いします。